

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	15H05729	研究期間	平成27(2015)年度 ～令和元(2019)年度
研究課題	包括的な金融・財政政策のリスク マネジメント：理論・実証・シミュ レーション	研究代表者 (所属・職) (令和4年3月現在)	上東 貴志 (神戸大学・計算社会科学研 究センター・教授)

【平成30(2018)年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○ A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、「バブル崩壊・金融危機・財政破綻のリスクを事前に推定し、これらのリスクに適切に反応する包括的かつ最適な金融・財政政策を導出する手法の確立」及び「多層的金融ネットワーク・モデルを構築し、同様の技術により、危機管理の手法の確立」を目的としている。現状の研究成果を見ると、研究代表者・分担者一人当たり年平均約1本の査読付き論文を学術誌に掲載しており、研究としては一定の高い評価を得ていることから順調に進展していると考えられる。ただし、本研究と直接な関係が希薄なものも含まれていることや、個々の論文は優れている一方で研究組織内の各研究者間の融合が十分に達成されているとは言い難い面もある。</p>	

【令和4(2022)年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	包括的な金融・財政政策のリスクマネジメントに関して、高度な計算能力を活用する計算社会科学という比較的新しい研究手法を開拓する本研究は、文理融合の新しい研究フレームワークを提示する試みと高く評価できる。当該研究分野の学術雑誌を中心に多くの論文が刊行され、学会報告も活発に行われており、十分な成果発信を行っている。
	今後、これら手法を活用した金融・財政政策のリスクマネジメントに密接に関連する研究のほか、現実のマクロ金融・財政政策におけるリスク推定手法や政策の具体的な提言につながっていくことが期待される。